

OSIFA

大網白里市国際交流協会

OamiShirasato International Friendship Association



つばさ 20

2016 Jun

CONTENTS

頁	
01	第 23 回大網白里市国際交 流協会総会
02	総会 会長挨拶 会長 田村 隆文
03	役員名簿
04	平成 28 年度事業計画
05	平成 27 年度事業報告
07	JIU 留学生ホームステイ 受入
08	ミニデータ 大網白里市 在住外国住民数



発行 大網白里市国際交流協会
事務局 大網白里市教育委員会
生涯学習課内

☎ 0475(70)0380

Fax 0475(72)9115

URL: <http://osifa.jimdo.com>

第 23 回大網白里市国際交流協会総会

平成 28 年 5 月 21 日 (土) 大網白里市中央公民館講堂において、平成 28 年度年次総会が開催されました。

総会には、大網白里市教育委員会 教育長 小高 實 様、他に城西国際大学や近隣の国際交流協会代表者等 8 名の来賓の皆様にご臨席を頂き、会員 46 名が出席して盛大に挙行されました。

田村会長による開会の挨拶に引き続き、小高 實 教育長から祝辞に併せ、当協会活動への評価及び、今年度活動に対する期待のお言葉を頂きました。続いて来賓お一人ずつご紹介の後、議題の審議に入りました。



小高實 教育長ご挨拶



総会会場風景

昨年度の事業活動報告、収支決算報告及び本年度活動計画と収支予算の提案を行い、この中で一部の予・実算について質問も頂きましたが、提案議案通り承認され、続いて、当年度は二年任期の役員交替の年に当たるため、平成 28 年度、29 年度の役員選任と役員の役割委任について議案を承認いただき、新理事一名と新監事二名の紹介を行い閉会しました。

総会終了後は、会場にてミニ・パーティーを開催し、来賓及び会員との親睦を図りました。



ミニ・パーティー記念撮影

＜田村隆文会長の挨拶＞

皆さん、今日は、本日は平成 28 年度第 23 回大網白里市国際交流協会の総会に当たりまして、多数の皆様のご出席をいただき、誠にありがとうございます。また、大網白里市教育委員会 教育長 小高 實（おだかみのる）様を初めといたしまして各方面より多数の皆様のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。



開催にあたりまして、始めに、熊本県を中心に発生している一連の地震により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。また、被災者の救済と被災地の復興支援のためにご尽力されている方々に深く敬意を表します。被災地では余震が続き、多くの方が不自由な生活を強いられ、刻々と変わる状況の中で不安な日々を過ごされておりますが、皆様の安全と被災地の日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、協会のこの 1 年を振り返ってみますと、将来に向かって活動の幅は着実に広がった 1 年間であったと考えております。具体的な主な活動としましては、城西国際大学留学生との交流会では、出身国別留学生による日本語スピーチ大会を実施し、日本に来て間もない留学生が流暢な日本語で日本社会を理解しようとする大変素晴らしいスピーチをいただきましたが、参加する会員の皆様にとっても大変勉強になったとの好評を得ております。また、ホームステイ、ホームビジットは諸外国からの学生の皆様と会員家族が多様な異文化交流を体験することが出来る大変貴重な機会となっております。大学とのこれらの協同事業は文部科学省が提唱する大学のグローバル化と総務省が提唱する市町村の多文化共生社会の構築にマッチングした活動となっており、大変意義のある事だと思っております。

また、協会主催による国際食文化交流会は、毎年、多くの皆様の参加による盛大な食文化交流会となっており、いろいろな国から来ている在住外国人の皆様による料理、歌、日常生活の紹介があり、参加された皆様には大変好評で毎年楽しみにされております。また、茂原地区在住のフィリピン人会の皆様にも多数参加していただいております。国際食文化交流会は外房地域における地域に密着した異文化交流の原点となっており、地域のグローバル化に極めて重要な行事となっております。

次に、市と当協会の協同事業として実施している「大網白里市多文化共生推進プラン」は、「大網白里市第 5 次総合計画」に基づく分野別計画として位置付けられました。地域における情報の多言語化の一環として英語・中国語によるゴミの出し方パンフレットの作成の支援や日本語の学習支援として日本語教室を開催しております。

地域に住む外国人の皆様が安全で安心した生活ができるように行政と緊密に連携しながら、出来ることから積極的に活動を推進して参りたいと思っております。

国際交流は従来为国家レベルから、地域レベル、草の根レベルの交流が益々重要となっており、地域レベルの交流は異文化の相互理解を一層推進し、自らの地域のアイデンティティーを明らかにした魅力ある地域づくりが必要と考えられております。

また、最近海外からの観光客が急速に増加しており、4年後には、東京オリンピック・パラリ

ンピックが開催され、外国人の日本訪問は確実に増加するだろうと言われております。我々が住んでいる茂原・大網・東金地域は、地理的にも成田国際空港と東京国際空港（羽田空港）の中間地点にあることから、トランジット客（乗換客）やストップオーバー客（途中降機の短期滞在客）も増加して来ると予想されております。地域のグローバル化は、地域の経済・文化の発展の一躍を担うと言われております。これは、地方創生社会の一環でもあります。当協会としても地域のグローバル化に少しでも努力をしながら、経済・文化の発展に貢献できればと思っています。

最後になりましたが、国際交流事業や多文化共生事業の多くはボランティアの皆さんの力によって支えられていると強く感じております。外国人住民を含めた地域に住む全ての人々が安心して暮らせる街を目指して行くためにも、会員の皆様やボランティアの皆様のネットワークの充実が大変重要であると考えております。

今後とも皆様方の暖かいご支援・ご協力をお願いいたします。

本日は、新年度事業計画について第7号までの議案を提出してございます。皆様の慎重なご審議をお願いして開会の挨拶といたします。

平成 28 年度協会役員・委員名簿

平成 28 年度は役員の新選年度になり、新理事 1 名、新監事 2 名を迎えて、平成 28 年度の役員構成は下記の通りとなります。

役 職	氏 名	担 当 委 員
会 長	田村 隆文	多文化共生委員長
副 会 長	伊東 正人	会長補佐
副 会 長	古内 早苗	研修委員長、多文化共生副委員長
副 会 長	橋本 聡二	交流委員長、多文化共生副委員長
専務理事	播本 寛	広報委員長
理事会計	村中 正子	交流副委員長
理 事	永野 和子	広報副委員長
理 事	田中 正枝	日本語教室委員長、多文化共生委員
理事会計	戸坂 知子	研修副委員長、日本語教室委員
理 事	坪井 百代	研修委員、多文化共生委員
理 事	平井 杏	日本語教室副委員長、交流副委員長
理 事	郭 素霞	交流委員、多文化共生委員
理 事	Paul A. Conroy	多文化共生委員
理 事	田中 建一	日本語教室委員、多文化共生委員
会 員	平野 智美	広報副委員長
監 事	八角 榮子	
監 事	小山田 光成	
名誉会長	金坂 昌典	
最高顧問	小川 公延	

新理事・監事のご紹介

<田中 建一 理事>

- ・市内養安寺に在住
- ・社会保険労務士として活躍しながら、複数の大学の講師兼任
- ・昨年当協会に入会

<八角 榮子 監事>

- ・当協会発足以来の会員で昨年度まで理事を務める
- ・大網白里市 子ども会育成連絡協議会の会長を兼務

<小山田 光成 監事>

- ・平成 23 年入会以来、英語教室に所属、教室の活性化に貢献
- ・大網白里市文化協会役員兼任

*** 平成 28 年度事業計画 ***

昨年度策定された大網白里市多文化共生推進プランの最初の具体的施策である公民館事業として、日本語講座の開講と継続が決定されました。

これに従い当協会では新たに日本語教室委員会を設置し、既存の交流、研修、広報、多文化共生の各委員会に合わせた 5 委員会体制にて実施する当協会の本年度事業計画は下記の通りです。

1) 交流委員会事業

① 城西国際大学留学生との交流活動

毎年 10 月に恒例化した「留学生交流会」に加え、留学生のホームステイ及びホームビジットを受け入れ「うちの子プロジェクト」を推進します。

② 国際食文化交流会

近隣在住外国出身者、城西国際大学留学生等を招待して開催する食文化交流会。

今年は、平成 28 年 11 月 19 日(土)に予定しています。



2) 研修委員会事業

① 国内移動研修



身近な美術館、歴史的な名勝、文化遺産等の見学により国際感覚を養うことを目的に今年度は上総（いすみ市、長南町）の歴史のあるお寺を巡り彫刻や美術の鑑賞を行います。

実施日時：平成 28 年 6 月 29 日 視察先：行元寺、飯縄寺、笠森寺、房総浮世絵美術館

② 英会話教室（教育委員会所属 ALT による）

木曜クラス（毎週 木曜日）

金曜クラス（毎週 金曜日）

クラス参加者の英語力活用具体策を検討します。



3) 広報委員会事業

① 広報誌つばさ、及び、つばさ通信の定期的発行

② 協会ホームページの充実化、多言語化の検討

③ 協会内外への広報活動の強化



4) 多文化共生委員会事業

① 大網白里市多文化共生推進協議会への参画

② 多文化共生推進プランの具体的施策の推進活動参画

③ 当協会の他 4 委員会事業推進支援

5) 日本語教室委員会事業

① 公民館事業としての日本語教室開講継続への協力

② 日本語教室を通じての在住外国人市民のコミュニケーション支援と拡大

平成 27 年度実施事業

平成 27 年度には、下記の事業を実施しました。

1) 交流委員会事業

① 城西国際大学留学生ホームステイ及びホームビジット受け入れ



6月12～14日 城西国際大学サマープログラムの一環として米国より短期留学中の学生8名の二泊三日ホームステイを会員8家庭が受け入れました。

また7月17日には、同大学アジアサマープログラムに参加中の東南アジア諸国からの留学生

26名のホームビジットを13名の会員家庭に受け入れました。

② 城西国際大学留学生との交流会

10月24日(土)城西国際大学東金キャンパスにて、同学外国人留学生との交流会を開催しました。同大学留学生センターの指導教官及び留学生の絶大なる協力を得て、講演会、日本語スピーチ大会、及びレセプションを開催しました。当協会の会員19名、来賓4名、そして20数名の留学生及び同大学教官が参加し、盛大な交流会となりました。



③ 国際食文化交流会

11月21日(土)に第4回国際食文化交流会を農村環境改善センター(いずみの里)にて開催しました。当市及び近隣自治体在住外国出身者46名を含む85名を超す参加者により会場は満員となる盛大な交流会となりました。外国出身者の参加が半数近くとなり、極めて有効的な国際交流会となりました。

2) 研修委員会事業

① 移動研修 7月1日(水)移動研修として、水郷佐原の歴史探訪と佐倉市のDIC川村記念美術館での絵画観賞を行いました。佐原では、「伊能忠敬記念館」を訪問し、わが国最初の実測日本地図「大日本沿岸輿地全図」に感銘を受け、また小江戸の面影を残す佐原の街並みに、わが国伝統文化を再発見し、国際交流協会に相応しい学習をしました。会員22名が参加しました。



② 英会話教室(教育委員会所属ALTによる)

初級クラス(毎週 木曜日)

中級クラス(毎週 金曜日)

両クラス受講者の合計は40名を超えており、もう1クラスの増設が望まれる状況です。両教室の英語力レベルは、順に向上し、留学生ホームステイ等の交流委員会事業展開の大きな力となっています。

3) 広報委員会事業

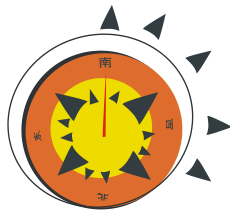
- ① 広報誌つばさ（年刊）、及び、つばさ通信（季刊）の定期的発行により、会員及び外部諸団体への活動報告及びPR媒体として重要な役割を果たしてきました。
- ② 協会ホームページの改善と更新
平成26年度初頭に新たに開設したホームページを絶えず更新し、広報誌「つばさ」、「つばさ通信」もより読み易い形で掲載して、広範なPR活動に貢献しています。

URL:<http://osifa.jimdo.com>



4) 多文化共生委員会事業

① 多文化共生推進協議会への参画



市が主催する「多文化共生推進協議会」に田村会長を含む3名の委員を派遣し、市と共に大網白里市の多文化共生推進プラン施策メニューの起案に参画しました。その結果、公民館事業としての日本語教室の開講、市ホームページや「ごみの出し方」などの多言語化などが実現しました。

② 日本語教室の開講協力

多文化共生推進プラン施策メニュー・コミュニケーション支援・日本語の学習支援の先駆け公民館事業としての日本語講座が平成27年11月から開設されました。当協会では、新たに日本語教室委員会を設置し、講師を派遣して授業を全面的に支援しました。これらの講座には、当協会の他メンバーもボランティアとして参加し、在住外国人生徒とのコミュニケーション、交流を図りました。

③ 協会員増員作戦の展開

交流、研修、広報、日本語教室の4委員会の活動を支援し活発に展開することにより、協会活動の意義と認知度を高めた結果、若い会員、外国人会員の加入が増えてきています。

5) 日本語教室委員会事業

- ① 平成27年度後半に、公民館事業としての日本語講座の開設が決定されたので、当協会では、新たに日本語教室委員会（委員長 田中正枝理事）を設置し、生涯学習課、公民館と協議を重ね対応しました。その結果、11月4日に第1回、12月9日に第2回、1月20日に第3回、そして2月3日に第4回日本語講座が開講され、在住外国人生徒5~7名に授業するとともに、3月16日にも協会ボランティア活動としての補習授業を実施しました。



- ② 平成28年度の公民館事業講座12回と協会ボランティア授業6回の開講に向けて教師の増員とカリキュラム作成を進めています。

城西国際大学留学生のホームステイ（サマープログラム2016）

受け入れ体験記

平成28年6月16日

会長 田村 隆文

米国のスペルマン・カレッジから城西国際大学のサマープログラムで短期留学している4人の女子留学生を会員の皆様が家族の一員として6月3日（金）から6月5日（日）までの間、2泊3日のホームステイを受け入れました。これは留学生が研修の一環としてホームステイを通して国際交流の芽を育み、ホストファミリーである会員家族と新鮮な驚きや感動を分かち合いながら、生活環境、習慣、言葉の違いを乗り越え、生きた日本語や日本の文化を学んでいただく事を目的としております。2泊3日という大変短い期間でしたが受け入れた会員家族の皆様も大変貴重な体験をされたことと思います。

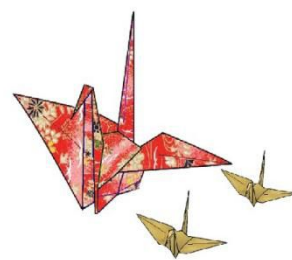
ここにホームステイを受け入れた会員家族を紹介し、代表してホストファミリー体験記を紹介いたします。



城西国際大学・語学教育センターの事務局により4人の女子留学生を紹介されました。古内早苗・副会長は、Destini Brooke Johnsonさんを受け入れていただきました。笠原順子・会員は、Zayd Muna Zoriさんを受け入れていただきました。山澤静子・会員は、Raven-Iman Rhonda Louise Jonesさんを受け入れていただきました。

私（田村）の受け入れた留学生は、Konstance Chistina Josephさんでした。大学から我が家まで車で30分くらいでしたが、私の方から積極的に話しかけて、私の年齢が彼女のお父さんより10歳以上も年上なのに、逆に10歳位は年下だと思ったとびっくりしていました。そして、一般の日本人の中でも私は若く見えるようなので、65歳、70歳の各種高齢者割引には身分証明書の提示が必要だと話しているうちにあっという間に家に着きました。夕食は家内と3人で久しぶりに賑やかな時間を過ごしました。翌日は、本人の希望（彼女の専攻は生物学）もあり、家族で葛西臨海公園にある水族館に行きました。館内を見学して巨大な水槽にはマグロが元気に泳いでおりましたが、昨年大量死した話に興味を持ったりして、世界各国の地域の魚が泳いでいるのを楽しそうに見ていました。水族館を見学した後、公園の有名な観覧車に乗って頂上の位置に来た時に東京の全景と千葉県が全景が見えたので写真を撮っていました。スカイツリーの高さにも驚いていました。夕食は、家内と一緒に買い物に行きバーベキューを楽しみました。夜は、深夜になるまで立体パズルとゲームと折り紙で楽しみましたが、立体パズルは直ぐに覚えて完成し、ゲームはオセロをしましたが強くて1勝1敗、折り紙づくりは、日本語の説明書がありましたが、図面を見るだけで折り鶴や簡単な花の作成も直ぐに覚えて楽しんでいました。私は、日本語の説明書を見ながら作成しましたが、彼女はほんとにも簡単に作っていました。ひょっとしたら、相当に知能指数が高いかとも思いました。

丁度、オバマ大統領が広島原爆資料館を訪問して折り鶴を寄贈した事を話すと彼女は折った鶴を米国に持って帰ると喜んでました。翌日は、日曜日で彼女の祖先が中米・カリブのハイチ出身と聞いてましたので茂原カトリック教会に行きました。久しぶりのカトリック教会だと言っていたが東京（上智大学）から来ている神父様（Farther）の英語・ラテン語司式による1時間半の世界共通のミサ（マス）を拝受し、リ spons は慣れた様子でした。ミサ後の懇親会ではお客様として紹介され、外房地区在住で教会に来ているフィリッピン人（30数名）や中南米の皆様ともラテン系のノリで楽しんでいました。その日の夕食を家族で楽しんだ後に東金市内のアパートまで送りました。

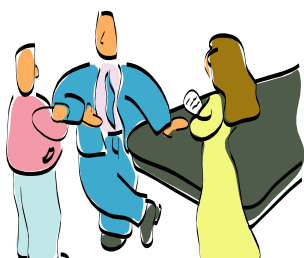


修了式は6月16日（木）午後3時から日本語プレゼンテーション、閉校式及び送別会が城西国際大学H棟3階のプレゼンテーションホール及び語学教育センターで行われ、ホストファミリー全員が参加しました。修了式後は別れの時間を惜しみながら再会を祈念して大学を後にしました。（文責：田村）

大網白里市住民登録者数と外国人住民数

* 市役所提供資料による。各年度の日付は4月1日現在

ミニデータ！



大網白里市 住民登録者数	平成 27 年	平成 28 年	伸び率
	50,574 人	50,365 人	-0.41%
上記の内 外国人住民 出身国別内訳			
中国	157 人	144 人	-0.08%
フィリッピン	97 人	108 人	+0.11%
タイ	92 人	92 人	±0.00%
ベトナム	65 人	61 人	-0.06%
韓国	61 人	69 人	+0.13%
その他	138 人	123 人	-0.11%
総数	610 人	597 人	-0.02%

《編集後記》

今年度から協会役員の業務分担の一部変更に伴い、広報誌の編集・発刊業務を前専務理事より広報委員会に引き継ぐことになり、この「つばさ 20 号」の発刊が初仕事になりました。前任者からのご指導と、皆様のご協力を得て何とか発刊に漕ぎ付けました。今後この広報誌をはじめ、季刊「つばさ通信」、ホームページの適切な更新などによって協会活動の様子を会の内外に発信をしていきたいと思っております。皆様の活発な活動と、併せて情報発信へのご協力を宜しくお願いいたします。*